

I. 研究分野

1) 学術論文 (共著を含む)

2017年4月 <ソーシャルワーク最前線>ソーシャルワーカーの視点 : 大野圭介さんに聞く「就労継続支援B型事業所の運営」を通して」大野圭介 聞き手: 福島喜代子『ソーシャルワーク研究』第43(1)、64-68.

“Current Implementation of and Opinions and Concerns Regarding Suicide Education for Social Work Undergraduate Students in Japan: A Cross-Sectional Study.” Journal of Social Work Education, 54, 79-93. 2018. Published online: 05 Jul 2017. <http://dx.doi.org/10.1080/10437797.2017.1314837>、共著、Manami Kodaka, Emi Hikitsuchi, Michiko Takai, Sumie Okada, Yasue Watanabe, Kiyoko Fukushima, Mitsuhiro Yamada, Masatoshi Inagaki, Tadashi Takeshima & Toshihiko Matsumoto. 査読あり

2017年8月 児童養護施設における子どもの成長—レジリエンスを分析枠組みとした事例研究—『ソーシャルワーク研究』43(1)、pp48-59、共著、篠塚利部香、福島喜代子.

“Illness Management and Recovery program in community-based continuous employment support centers in Japan: Preliminary study on effects and feasibility.” Japanese Journal of Social Welfare, 57(5), 11-19, Published online: 25 August 2017、共著、Fukushima, K., Kodaka, M. & Suzuki, A.、査読あり

2017年10月 東京精神保健福祉士協会『研修ニーズと業務状況に関する調査～調査結果報告～』『東京PSW研究』26巻、pp 25-42、共著、坂入竜治、宮井篤、田保圭一、大林美由紀、熊谷仁恵、坂本興一、櫻井真一、田中浩子、田中秀治、福島喜代子

2017年11月 地域における科学的根拠に基づく実践プログラムの認知度と実施意向、促進・阻害要因に関する研究—Illness Management and Recoveryに焦点をあてて—『精神障害とリハビリテーション』21(2)、162-169、共著、福島喜代子、小高真美、鈴木あおい、査読あり

2017年11月 「ソーシャルワーカー養成課程における自殺予防教育の試み—新たに開発された教育プログラムの実施可能性と効果の予備的検討」『自殺予防と危機介入』、37(2): 25-34、小高真美、引土絵未、高井美智子、岡田澄恵、渡辺恭江、福島喜代子、稲垣正俊、山田光彦、竹島正、松本俊彦、査読あり

2018年3月 「IMR (リカバリーと病気の自己管理) 導入支援の促進要因と阻害要因—ノルウェーのIMR導入戦略に焦点をあてて—」『ルーテル学院研究紀要』51、15-40、共著、福島喜代子・小高真美・鈴木あおい

2018年3月 「ノルウェーにおける精神保健医療福祉システムとIMR (リカバリーと病気の自己管理) プログラムの実践」『ルーテル学院研究紀要』51、81-94、共著、福島喜代子・小高真美・鈴木あおい

2) 著書

2018年3月 『2018年(改訂第9版)社会福祉学習双書 第8巻 地域福祉の理論と方法』社会福祉学習双書編集委員会 編著、全国社会福祉協議会、分担執筆部分; 第4章第5節3「日常生活自立支援事業」、pp261-272

3) 書評他

2018年2月 (巻頭言) 「ソーシャルワーカーはなぜAI時代でもロボットや人工知能に代替されないか?」『ソーシャルワーク研究』43(4)、1頁

4) 講演・発表

2017年6月 「ソーシャルワークにおける住民参加の効果とは—探索的な文献研究—」日本地域福祉学会、第31回愛媛大会、地域福祉の方法①分科会、口頭発表、単独発表。

2017年7月 「ソーシャルワーカーの「思考」に沿った記録の試み—SOAP方式に「I: 支援内容」を加え「P」を「今後の計画」とした記録方式—」日本ソーシャルワーク学会大会、第34回札幌大会、口頭発表、単独発表。

「地域福祉コーディネーター（CSW）の「個別支援」以外の支援の多様性－「実地研修」
2017年10月 記録から浮かび上がる支援・活動レベル、場面、対象の様相－」日本社会福祉学会、第
65回秋季大会、方法・技術分科会、口頭発表、単独発表。

II. 地域・社会貢献

1) 学会の役員、査読委員、その他役割

2014年4月～ 『ソーシャルワーク研究』編集委員
2014年4月～ 『ソーシャルワーク研究』査読
2014年～ 日本ソーシャルワーク学会査読委員
2012年～2014年、 日本社会福祉学会 査読委員
2015年～2017年末

2) 講演・研修会講師等

「自殺危機初期介入スキルワークショップ」「リーダー養成研修」各地（保健所、精神
保健福祉センター、都道府県、市町村、専門職団体等）
「日常生活自立支援事業」研修、事例検討 各地 社会福祉協議会等
「地域福祉コーディネーター、コミュニティ・ソーシャルワーク研修」社会福祉協議会
等
「IMR（リカバリーと病気の自己管理）研修」各地 障がい者福祉サービス事業所等
「総合相談研修」 各地（社会福祉協議会、専門職団体等）
「アセスメント研修」各地（精神保健福祉センター、専門職団体、社会福祉協議会等）
「多職種連携研修」各地（社会福祉協議会、専門職団体等）
「記録」各地（社会福祉協議会、社会福祉士等専門職団体等）
「グループワーク」各地（社会福祉協議会、社会福祉士等専門職団体等）
2017年12月 全国社会福祉協議会 日常生活自立支援事業「地方ケース検討会スーパーバイザー」
2018年2月 「集合研修方式スーパービジョン」「認定社会福祉士認証・認定機構」「認定社会福祉
士に対して、上級スーパーバイザーとして、個別スーパービジョンの提供」
「対人援助の基本」市民後見人養成講座 各地 社会福祉協議会等